

高松市生涯学習センター 市民参画促進事業 [指導者のためのセミナー]

「指導者のためのセミナー『“まち”をデザインする』

を開催しました

平成23年1月23日、2月6日、2月13日の3回にわたって、「指導者のためのセミナー『“まち”をデザインする』」を開催しました。

第1回の1月23日には、株式会社studio-L 代表の山崎 亮さんを講師に迎え、山崎さんがデザイナーとしてこれまで行ってきた仕事など、実体験を元に「住民参加のまちづくり」について話していただきました。

山崎さんは自ら様々な地域に飛び込み、その地域の人々と交流を図りながら、まちづくりを行ってきました。その体験談を、詳しく話していただきました。受講生は、



スクリーンに映し出された写真を見ながら、熱心に山崎さんの話に聞き入っていました。

山崎さんは、まちのデザインには、地域の住民の協力が必要不可欠だとおっしゃいました。それぞれの地域が抱える問題は、その地域に住む人々が一番よく知っているからです。デザイナーが一方的に「こういうものを作った方がいい」と押し付けるのではなく、地域の住民と、デザイナーの双方が意見を言い合い、まちづくりをしていくことが大切なのだそうです。

山崎さんは、この講座に参加された方々を見て、「高松というまちにも、まちづくりに熱心な方がこんなに沢山いるということが分かって嬉しい。」ととても喜ばれていました。



第2回の2月6日には、香川大学院地域マネジメント研究科教授の田中豊さんを講師に迎え、「NPO、企業、コミュニティとの連携」について話していただきました。

最初に、田中さんは少子高齢化や国・地方の財政についてなど、地域の抱える問題について触れました。少子高齢化については、日本は他の主要先進国に比べて高齢化が進み、対策も不十分であるこ

とを指摘され、危機感を持つことが大切だと教えていただきました。

次に、地域の問題解決について話していただきました。地域の問題を解決する為には、住民だけではなく、団体・コミュニティ・NPO・企業・行政など、様々な機関が連携し協働していくことが大切だそうです。その為には、住民が積極的にコミュニティや役所などに足を運び、遠慮なく意見を言っていくべきだと強調されました。

また、社会に関係なく、私的利益だけを求める人は、たとえ立派な企業に勤めていたとしても、「法人」とは呼べないと田中さんはおっしゃいました。社会で人として認められて、人として振舞っていくのが正しい「法人」の姿であり、「法人」としてまちづくりに参加してほしいと受講生に呼びかけられていました。

第3回の2月13日には、ROOTS BOOKS代表の小西 智都子さんを講師に迎え、「情報伝達のあり方、仕方」について話していただきました。

まずは受講生の方々に2人1組となり、普段自分がどんな活動をしているか、1人3分間で自己紹介を行いました。どのように話せば相手に自分の情報が上手く伝わるか、受講生の方々は熱心に考えられていました。



次に、情報を上手く伝える為の「コツ」を伝授していただきました。2通りのデザインの広告を見比べ、どちらのデザインの方がより優れているかを受講生全員で選んでいきました。例えば、旅行の広告は、長々と説明を載せた広告よりも、写真を大きく使い、情緒的で雰囲気の伝わる広告の方が、広告を見た人に「行きたい」と思わせることができます。逆に、保険の広告は、きちんと説明が載っていなければ、広告を見た人に「加入しよう」と思わせることができません。つまり、伝える媒体に合わせた効果的なデザインをすることが大切なのです。この他にも、図版率やジャンプ率といった専門的なデザインの知識や、企画書の作り方など、様々な情報伝達の「コツ」を教えていただきました。

小西さんは、高松のことは高松に住む人々が発信していかないと、他県の人々には伝わらないと考え、自ら出版社を立ち上げられました。情報伝達もまちづくりと同じで、その地域に住む人々が中心となって行わないと、何も伝わらないし、何も変わらないとおっしゃっていました。

講座を終え、受講生の方から「今回の講座を受けて、これからも積極的にまちづくりに関わっていこうという気持ちの後押しをされた。とても勇気が出た」とのお言葉をいただきました。受講生の方々と講師との質疑応答・交流も盛んに行われ、とても活気のある充実した講座となりました。